

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医療的ケアⅢ Medical careⅢ		2年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみⅡ、生活支援技術Ⅵ、医療的ケアⅠ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療的ケアⅡ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田晴美	福祉棟 2F	月・火・水・木の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
医療的ケアⅢでは、経管栄養実施に必要な消化器系のしくみとはたらきについて、1年次の「こころとからだのしくみⅡ」での学びを振り返りながら進めていく。また、経管栄養によっておこる消化器の症状や経管栄養の対象、経管栄養のしくみと種類について学ぶ。さらに、高齢者および障害児・者への経管栄養の実施手順と留意点を学習し、後期の「医療的ケアⅣ」での経管栄養の実施につなげる。				
授業の目標				
①消化器官の構造と咀嚼・嚥下・消化・吸収のしくみを説明できるようにする。 ②経管栄養のしくみと種類を説明できるようにする。 ③経管栄養を必要とする対象を列挙できるようにする。 ④経管栄養により生じる危険と安全確認事項を列挙できるようにする。 ⑤経管栄養の実施手順と留意点を説明できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、経管栄養の実施手順については、デモンストレーションや演習を組み入れていく。				
学習の成果（学習成果）				
消化器官の構造や機能、消化吸収のしくみを確認したうえで、医療的ケアである経管栄養を安全かつ適切に実施するための知識を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって授業概要 授業の目標と学習の成果 評価方法等の説明） 消化器系のしくみとはたらき① 口腔の構造と咀嚼・嚥下のしくみ			
第2回目	消化器系のしくみとはたらき② 消化器官の構造と機能 胃・小腸・大腸・肛門・肝臓・胆のう・膵臓			
第3回目	消化器系のしくみとはたらき③ 消化器官の消化・吸収のしくみ			
第4回目	消化・吸収とよくある消化器の症状 消化・吸収の異常			
第5回目	経管栄養が必要な状態（小テスト①）			
第6回目	経管栄養のしくみと種類① 注入する内容に関する知識			

第7回目	経管栄養のしくみと種類② 実施上の留意点	
第8回目	子どもの経管栄養	
第9回目	経管栄養により生じる危険 注入後の安全確認 経管栄養を受ける利用者と家族の気持ち	
第10回目	経管栄養で用いる器具・器材 視聴覚教材「経管栄養」の視聴による実施手順と留意点の確認 (小テスト②)	
第11回目	経管栄養の実施手順と留意点 【演習】	
第12回目	経管栄養の実施手順と留意点 【演習】 <経管栄養に関するレポート課題 第13回に提出>	
第13回目	経管栄養に必要なケア 事故発生時の対応	
第14回目	報告と記録 【講義・演習】 (小テスト③)	
第15回目	経管栄養の実施についての検討 【グループディスカッション・発表】	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	20% 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
	レポート	20% 経管栄養に関するレポートを提示し、以下の視点で評価する。①経管栄養についての自分の意見が述べられていること。②経管栄養が必要な利用者の思いを考察していること。
	調査報告書	
	小テスト	60% 授業の振り返り、知識習得の確認のため、第5・10・14回目に小テストを行い解説をする。問題は文章の正誤を判断する問題や語群からの選択問題、穴埋め問題等
	試験	
	発表内容 (態度含む)	
	その他	
教科書と参考図書		
新・介護福祉士養成講座 別巻 医療的ケア 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
講義・演習・グループディスカッションともに積極的に参加することを望む。演習時は身だしなみを整えること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。この授業は「医療的ケアⅠ」に引き続き行う前期後半のクォーター科目である。週2回授業があるので、注意すること。		